

科目ナンバリング		U-LAS06 20032 SJ43							
授業科目名 <英訳>	経済原論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Principles of Economics				担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 大黒 弘慈			
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	法・政治・経済(各論)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
経済学の境界領域に横たわる問題を拾い上げることで、経済学を相対化しながら、経済そのものの本質・原理を探る。									
【到達目標】									
資本主義の基礎的な仕組みを理解するとともに、通説を疑う姿勢を身に着ける。									
【授業計画と内容】									
資本主義システムは、経済的合理性のみにもとづく閉鎖体系ではなく、それを取り巻く社会的環境に開かれている。したがって、労働力・土地・貨幣といった境界領域の分析が不可欠である。とりわけ貨幣においては、経済と社会の矛盾が複雑なかたちで現れる。しかし経済学にとってなぜか貨幣は鬼門である。このゼミでは、貨幣を含め経済学の境界に横たわる諸問題を丹念に拾い上げ、経済学の正統を相対化しながら経済学原理への導入を図る。経済思想、社会思想を広く取り上げる前期のILASセミナー：経済思想を承け、後期においてはより理論的な問題を取り上げる。以下のような課題について、それぞれ2～3週授業をする予定である。あるいは年度に応じて2～3の課題を集中的に取り上げることがある。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．資本の統治と新自由主義的統治</li> <li>2．現代の貧困と資本の過剰</li> <li>3．宇野弘蔵の純粋資本主義論と方法の模写</li> <li>4．廣松渉の物象化論と価値形態論</li> <li>5．柄谷行人の交換様式論と交換過程論</li> <li>6．グレーバーの負債論とオルタナティブ社会</li> </ol>									
(授業回数はフィードバックを含め全15回とする)									
【履修要件】									
前期「ILASセミナー：経済思想」を履修しておくことが望ましい。									
【成績評価の方法・観点】									
平常点評価50点(討論への積極的参加25点、個別報告25点)、学期末レポート50点により、総合的に評価する。 レポート及び個別報告については、到達目標の達成度に基づき評価する。 なお学期末レポートを提出しない場合は0点とする。									
----- 経済原論基礎ゼミナール(2)へ続く -----									

経済原論基礎ゼミナール(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

マルクス 『資本論』 (国民文庫) ISBN:978-4272802517

宇野弘蔵 『経済原論』 (岩波書店) ISBN:978-4003415122

大黒弘慈 『マルクスと賃金づくりたち：貨幣の価値を変えよ (理論篇)』 (岩波書店) ISBN:978-4000253215

その他、授業中に適宜紹介する。

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

『資本論』を各自読み進めることが望ましい。

**[その他 (オフィスアワー等)]**

**[主要授業科目 (学部・学科名)]**

総合人間学部